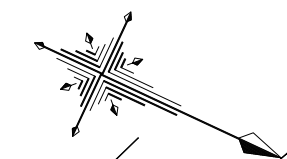


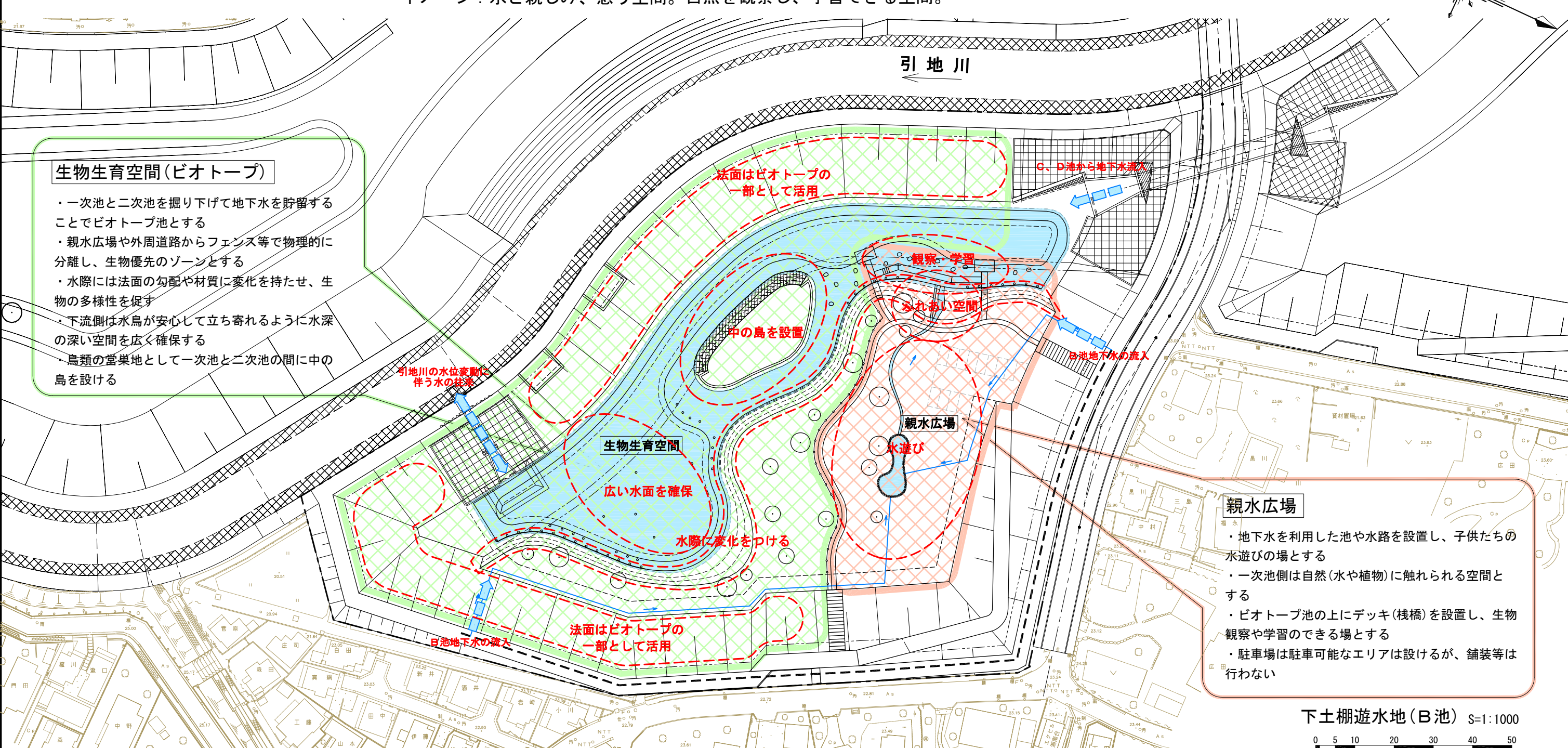
B池上部利用計画方針(案)

利用方針：生物が生育する空間と水と親しむ空間を区分し、それぞれの機能の両立を図る
 イメージ：水と親しみ、憩う空間。自然を観察し、学習できる空間。



生物生育空間(ビオトープ)

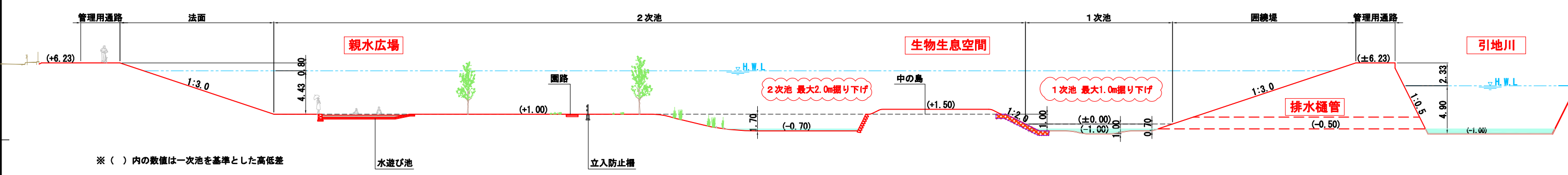
- ・一次池と二次池を掘り下げて地下水を貯留することでビオトープ池とする
- ・親水広場や外周道路からフェンス等で物理的に分離し、生物優先のゾーンとする
- ・水際には法面の勾配や材質に変化を持たせ、生物の多様性を促す
- ・下流側は水鳥が安心して立ち寄れるように水深の深い空間を広く確保する
- ・鳥類の営巣地として一次池と二次池の間に中の島を設ける



- #### 親水広場
- ・地下水を利用した池や水路を設置し、子供たちの水遊びの場とする
 - ・一次池側は自然(水や植物)に触れられる空間とする
 - ・ビオトープ池の上にデッキ(棧橋)を設置し、生物観察や学習のできる場とする
 - ・駐車場は駐車可能なエリアは設けるが、舗装等は行わない

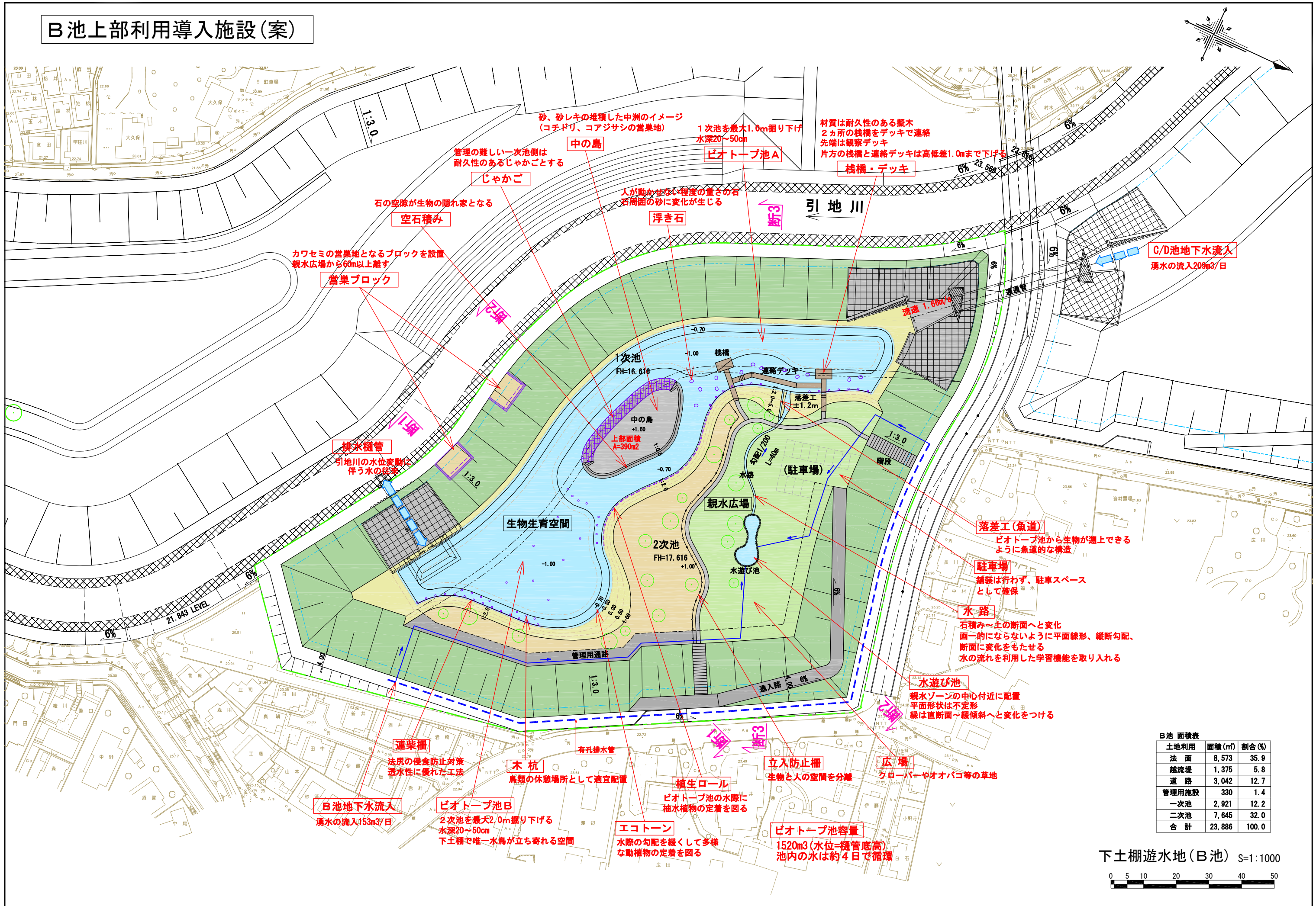
下土棚遊水地(B池) S=1:1000
 0 5 10 20 30 40 50

B池標準断面図



※ () 内の数値は一次池を基準とした高低差

B池上部利用導入施設(案)



砂、砂レキの堆積した中洲のイメージ (コチドリ、コアジサシの営巣地)
1次池を最大1.8m掘り下げ 水深20~50cm
材質は耐久性のある撥木 2カ所の棧橋をデッキで連絡 先端は観察デッキ 片方の棧橋と連絡デッキは高低差1.0mまで下げる
管理の難しい一次池側は 耐久性のあるじゃかごとする
石の空隙が生物の隠れ家となる
人が動かせない程度の重さの石 石断面の砂に変化が生じる
カワセミの営巣地となるブロックを設置 親水広場から60m以上離す
引地川の水位変動に伴う水の溢流
落差工(魚道) ピオトープ池から生物が遡上できるように魚道的な構造
舗装は行わず、駐車スペースとして確保
石積み~土の断面へと変化 画一的にならないように平面線形、縦断勾配、断面に変化をもたせる 水の流れを利用した学習機能を取り入れる
親水ゾーンの中心付近に配置 平面形状は不定形 縦断は直断面~緩傾斜へと変化をつける
法尻の侵食防止対策 透水性に優れた工法
鳥類の休憩場所として適宜配置
ピオトープ池の水際に 抽水植物の定着を図る
水際の勾配を緩くして多様な動植物の定着を図る
生物と人の空間を分離
クローバーやオオバコ等の草花
2次池を最大2.0m掘り下げる 水深20~50cm 下土柵で唯一水鳥が立ち寄れる空間
1520m³(水位=樋管底高) 池内の水は約4日で循環

B池 面積表

土地利用	面積(m ²)	割合(%)
法面	8,573	35.9
越流堤	1,375	5.8
道路	3,042	12.7
管理用施設	330	1.4
一次池	2,921	12.2
二次池	7,645	32.0
合計	23,886	100.0

下土柵遊水地(B池) S=1:1000

